

日本テコンドー協会（J T A）
2026年2月 理事会通信

日本テコンドー協会

理事長 河 明生

定例理事会における公開可能な決定事項につき告知します。

提案者 河 明生

全日本大会同等記録会における出場権及び推薦出場要件

2025年末、我が日本テコンドー協会（以下、J T A）は、創設以来の重鎮を心不全で失った。深い悲しみと共に美しいものは廃れ、形あるものは崩れ、生あるものは死ぬという宿命を觀じざるをえなかった。故人の生きた証は、家族とのいとなみとJ T A普及活動であろうと思う。そうであるとするならば、「J T A100年の計」を推進し、故人の功績を刻みたいと思う。

そのためには、大会（公式試合）における死亡事故を未然に防止するシステムを確立しなければならない。幸いJ T Aは、前進団体創立以来、約43年間の公式試合において死亡事故は無い。後遺障害や入院すら無い。

しかし、43年間なかったことが、今後も絶対無いとは言えない。とりわけ心不全は、出場選手個々の遺伝的問題や当日の心労の度合い等、予測が難しい。やはり出場選手全員が、持続的に練習に励むことで、「心臓の耐性」を強化する他ない。

持続的に大会へ出場している門人・会員は、当然のことながら、持続的に練習をし「心臓の耐性」を鍛えている。問題は推薦出場の選手である。

1年以上も大会に出場せず、全日本同等記録会に出場することは、組手であれ、型であれ、危険である。

また前年度の全日本同等記録会で優勝し、出場権を獲得している門人・会員が、1年間も大会に出場せず、翌年度の全日本同等記録会に出場することも、「心臓の耐性」上、問題がある。

そこで全日本同等記録会の前年度大会における出場権獲得者および推薦出場者は、

全日本同等記録会の予選会に必ず一度はエントリーし参加していなければならない、と定めたい。
ただし、同予選会における結果は問わない、とする。

理事会参加者

理事 武田敬之、 副理事 趙 哲来、 吉川 真、 廣川禎教の4名は、上記に賛成した。

記

2026年度以降の全日本大会同等記録会における
出場権獲得者（前年度、全日本大会同等記録会優勝者等）および推薦出場者は、

- ①同年の全日本大会同等記録会の予選会に参加していなければならない。
- ②上記参加は1回以上とする。
- ③上記参加の予選会における成績は問わない（たとえば、入賞以上等）